

(様式1-2)新規評価シート

農政部 農地整備課

事業名	県営かんがい排水		路河川名等	—	
事業毎の通番	1	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	須砂渡(すさど)
事業目的	本地区は安曇野市烏川の右岸から取水し、安曇平西部の優良な水田地帯を灌漑する受益面積388haの用水路の取水部である。昭和31年の完成後は安曇野烏川土地改良区により維持管理されているが、頭首工を含む未更新の施設については老朽が著しく、ゲート施設は手動式であり取水量管理に迅速対応できないケースが生じている。また組合員の高齢化等により維持管理作業に多くの労力を要するだけでなく、作業の安全性が確保されていない。土砂吐ゲートについては駆動部の故障が度々発生し、多額の修理費用捻出に苦慮しているだけでなく、河川内での危険な作業を伴う応急措置を要することもある。今回、更新整備を行い地域の安定的な灌漑水源の確保と、遠隔操作による維持管理の軽減や作業の安全化を図る。				
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進(多様な技術の活用による効率的な経営の推進)	事業実施の根拠法令等	土地改良法		
関連する事業、計画等	・第3期長野県食と農業農村振興計画 ・安曇野市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想 ・安曇野市農業農村振興地域整備計画				
保全対象・範囲	安曇野市内内の安曇野市烏川土地改良区が施設管理する区域				
受益対象・範囲	受益対象の農家数 858戸、農地面積 A=388ha				
着手年度	2023年度(令和5)	事業期間	4年間	事業費(千円)	
完成年度(見込み)	2026年度(令和8)	費用対効果	1.1	財源内訳(千円) 国庫 135,000 其他 67,500 県債 270,000 一般財源 67,500	
全体事業内容(主な工種)	頭首工躯体補修 N=1箇所、取水ゲート(電動化) N=2門 土砂吐ゲート(更新) N=1門、開水路補修 L=306m		270,000	135,000 67,500 67,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	作物の生産性向上[用水路改修により、用水不足による作物被害を防止し、生産性の向上を図る] 維持管理費の軽減[用水路改修による施設維持管理経費の削減] 作物の品質向上[用水路改修による品質や価値の向上]			
	間接的効果(定量的・定性的)	耕作放棄地の発生抑制[用水の安定供給による耕作放棄地の防止]			
評価の視点	必要性	○受益戸数 : 858戸 ○受益農地面積 : 388ha ○地域用水機能を有する : 年間を通じて農業用水を防火用水、生活用水に利用、非かんがい期は維持用水にも利用	評価	A	
	重要性	○用水不足・排水不良 : 受益面積の100%に影響 ○関連計画、重要施策との整合 : 関連計画、重要施策と3つ以上整合 ○人・農地プラン : 実質化された人・農地プラン作成済み(烏川地区 R3.3実質化、三田集落 R3.3実質化) ○日本型直接支払制度 : 受益地内において3組織の取組あり	評価	A	
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.12 ○事業期間 : 4年間 ○工法等の比較検討 : 平成22年度に機能保全計画を策定、令和2年度に機能保全計画の見直しを実施済み	評価	B	
	緊急性	○近年の自然災害 : 近年5年になし ○計画との整合 : 機能保全計画の対策年度(2014年度)を超過している ○用水の状況 : 施設の老朽化により支障が生じている	評価	B	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 改良区組合員を中心に事業計画を説明済み ○地域の取り組み : 平成30年度改良区理事会において、須砂渡頭首工の改修計画を議題とし議決済み ○地域の合意形成 : 平成30年度改良区理事会において、須砂渡頭首工の改修計画を議題とし議決済み ○住民との協働 : 維持管理等に住民参加は見込まれない ○事後・再評価からのフィードバック : 事後 課題整理表 整理番号8-4、再評価 整理番号8-1	評価	A	
	所管課の意見	本地区の頭首工は老朽化が著しく、ゲート設備の故障により取水に支障をきたすなど、維持管理に多大な労力を要しており、取水不能となった場合に受益農地に与える影響も大きい。事業着手が妥当であると判断する。	採択状況	総合評価	A
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本施設は安曇野市烏川の右岸から取水する、安曇平西部の388haの水田地帯を灌漑するの重要な水源施設である。築造後60年以上を経過し老朽が著しく通常の維持管理に労力を要するだけでなく、故障・補修による取水の中断等の支障が生じている。また、維持管理作業の安全性が確保されていない状況でゴミ除去等の作業が行われており、本事業の実施により地域の安定的な灌漑水源の確保と、遠隔操作による維持管理の軽減や作業の安全化を図る。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	近年、施設の老朽化による維持管理に係る労力及び修理費用の負担増大が懸念されており、平成30年に土地改良区において事業化に向けた検討を開始。令和2年度に、経年劣化の現状確認と過去に策定された機能保全計画の見直しを行い、更新を含めた整備を要する施設・範囲を確定し事業化に向けた検討を進めてきた。	
③ 事業説明等の経緯	H21年度: 須砂渡頭首工について、ストックマネジメント調査を実施し、機能保全計画を策定 H22年度: 幹線用水路について、ストックマネジメント調査を実施し、機能保全計画を策定 H30年11月: 改良区第3回理事会において、事業化について説明。 H31年2月: 改良区第4回理事会において、事業化について承認議決。		
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	第3期長野県食と農業農村振興計画、安曇野市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想及び安曇野市農業農村振興地域整備計画に基づき、土地基盤整備を推進する。		
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	当地区は長野県烏川渓谷緑地公園及び国営アルプスあずみの公園に隣接するため、施設の更新にあたっては周辺の景観等に配慮する。		
⑥ 人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	用水の安定供給と遠隔操作による維持管理の省力化や安全化を図る。		
⑦ その他	工事期間中、重機振動・騒音・排出ガス対策のため、排出ガス対策型の作業機械を使用する。		
事後・再評価からのフィードバック	○事後 課題整理表 整理番号: 8-4 ○再評価 課題整理表 整理番号: 8-1 実施計画策定及び詳細設計においては、機能診断に基づく適正な更新によりライフサイクルコストの低減を図るとともに事業費の妥当性、効率的な施設の維持管理及び安全性の確保等の検討を行う。	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 36° 18' 51.5" 東経: E 137° 50' 00.2"